

授業科目 保健統計学

【担当教員名】 遠藤 和男		対象学年	3	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】 ＜概要＞ 保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒後現場でも応用できる統計学の方法を学習する。医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎についての修得を目指す。 ＜一般目標：G10＞ 証拠に基づいた医療である EBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 証拠に基づいた医療である EBM の重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. コンピュータ学習 (CAD) に積極的に参加する。 4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる。 5. 適用した検定結果について正しく判断できる。 6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。					
回数	授業計画・学習の主題		SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	データの代表値、散布度について学ぶ。		2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
2	度数分布表及びヒストグラムの描き方を演習する。		2, 3	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男 他	
3	統計学的な検定の手順及び基本的な統計分布の意味を学ぶ。		1, 2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
4	2 群の平均値の比較について様々な方法を演習する。		3-6	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男 他	
5	保健衛生の指標及び率の調整方法について学ぶ。		2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
6	年齢調整法のうち、標準化死亡比を用いて演習する。		3-6	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男 他	
7	疫学研究のさまざまな型と実際に用いられる指標について学ぶ。		2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
8	後向き調査の手法を用いて、食中毒の原因解明について演習する。		3-6	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男 他	
9	記述疫学の方法とアンケート調査の実際について学ぶ。		1, 2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
10	実際に調査、集計された結果を用いて分析を行う。		3-6	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男 他	
11	地域相関研究の考え方、相関係数の求め方について学ぶ。		1, 2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
12	相関係数を求め、地域相関の資料を用いて演習する。		3-6	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男	
13	スクリーニングの基礎である感度及び特異度の意義を学ぶ。		1, 2	講義と小テスト、担当：遠藤 和男	
14	スクリーニングの各指標の変化について演習する。		3-6	演習（助手またはATが応援）、担当：遠藤 和男 他	
15	まとめと総合演習（国家試験問題を用いる）		1-6	講義＋演習、担当：遠藤 和男	
【使用図書】		＜書名＞		＜著者名＞	＜発行所＞
教科書 (必ず購入する書籍)		保健統計テキスト改訂版		遠藤和男	考古堂
参考書					2010・2,800 円＋税
その他の資料		必要に応じて統計数値表などの補足資料を配布する。 講義の際にはPptの資料を配布するので、ノート代わりとして活用すること。			
【評価方法】 1. 偶数回（前半）終了時に小テストを実施する。 2. 奇数回（後半）終了時に演習課題を提出する。 3. 筆記試験結果とともに、1、2の内容及び出席態度を考慮して総合的に評価する。		【履修上の留意点】 ※高校の数学B（3）統計とコンピュータの「イ. 資料の分析」の所に、代表値、分散、標準偏差が載っており、 本来学習すべき事項なのに、センター入試と関係が薄いために、高校では熱心には教えていないのです。 数学が弱いと思う場合、「学習支援センター」が開催する「統計学基礎セミナー」を必ず受講して下さい。 *当初戸惑うでしょうが、現場ではこれ以上のレベルが求められているのです！必要最低限の知識は覚えること！ なお、健康栄養学科では後期後半に、2コマ通しての授業となる予定です。			